

最上小国川清流未来ニュース

平成 29 年 11 月 29 日 発行
最上小国川清流未来振興機構

第8号

おもてなしの
心で癒す
目標：地域の観光
者数 150 万人を目
指す。

① 物販及び情報発信施設新設の検討	⑥ 歴史的な赤倉温泉街の継承・発展
② 流水型ダム周辺整備	⑦ 温泉地等の魅力向上の推進
③ 月楯橋・満沢橋付近での駐車場 と進入路の確保	⑧ 「川の駅」でのイベント開催
④ 遊歩道の整備	○ 川床の茶屋設置方策の検討
⑤ 共同浴場とふかし湯の整備	○ イベントの連携検討
	○ 親水空間創出の推進

■ : 平成 28 年度まで完了
□ : 事業実施中

特集 最上小国川流域の振興に向けた取り組み

下の図は、平成 27 年 4 月に策定した「最上小国川清流未来振興計画」です。この計画に基づいて、現在、様々な取り組みが進んでいます。最上小国川清流未来ニュースでは、こうした取り組みの動きについて、毎号、ご紹介していきます。今回は、その中から 3 つの取り組みについてご紹介します。

※アユは最上小国川
全川で放流

- アユ
- ヤマメ
- イワナ
- サクラマス



清流を守り・
育て・活かす
目標：アユの放流量と漁獲量 50%増
を目指す。

- アユ等の放流 ← 裏面で紹介
- ① アユ放流事業への支援
- ② 水源井戸の整備
- ③ アユ中間育成とサケのふ化場の
併用施設整備
- ④ サケふ化施設の遊休期間を活用
したアユ種苗生産の増大
- ⑤ 中間育成技術の継承と人材確
保・育成 ← 裏面で紹介
- ⑥ 環境モニタリング
- ⑦ 魚道改修・修繕の検討・
実施 (一部完成)
- ⑧ 河川工事における環境対策
- ⑨ 水辺林、溪畔林の整備
- ⑩ 計画的な保安林の指定
- ⑪ 合併浄化槽の整備
- 農薬等の低減
- 間伐材の搬出・主伐後の再造林



先人から引き継ぎ、未来に伝える 清流文化 最上小国川



川を知り
川に親しむ
目標：子どもの最
上小国川のイベン
ト参加者数年間
8,000 人を旨す。

- ① アユ釣り教室の開催
- ② 川魚のつかみ取り大会や放流事業の開催
- ③ イワナ、サクラマス等の産卵場造成
- ④ 遊魚券の販売促進
- ⑤ ふながた若鮎祭りにおけるアユ利用拡大
- ⑥ 釣り場のアクセス改善
- イベントの連携協定



⑦ 魚道の改修 瀬見発電所
頭首工 最上町 大堀

地元ブランドで活性化する
目標：雇用の確保につながるブランド品の
創出 3 品目を旨す。

- 6 次産業化の推進
(アユ加工品等の開発支援)
- 地域ブランド商品の開発
- 木質バイオマスの利活用の推進



① 最上小国川流水型ダム整備 ← 裏面で紹介

治水や治山で
自然と共存する
目標：50 年に 1 度の
洪水を安全に流せる
ようにする。

- ② 河川整備 (長沢地内)
- ③ 河川整備 (大堀地内)
- ④ 赤倉地区内水対策 (一部完成)
- ⑤ 河川情報の提供 (ライブカメラ設置)
- 防災意識向上の推進
- 河川の効果的な維持管理
- 水位等の河川情報の提供
- 克雪対策の推進



⑤ 共同浴場とふかし湯の整備
(せみの湯) 最上町 瀬見



③ アユ中間施設育成とサケふ化場
の併用施設整備 舟形町 舟形

サケふ化事業と人材育成に取り組んでいます！

「最上小国川清流未来振興計画」に基づく取り組みの中から「中間育成技術の継承と人材確保と育成の推進」について紹介します。

10月下旬から11月中旬にかけて、最上小国川でサケの調査釣り・採捕事業が行われました。この事業は、サケが生まれた川に戻るそ上調査やふ化・放流のための採卵を目的に実施するものです。今年度はサケのそ上が少ないという予測があってふ化事業に支障を来す恐れがありました。10月下旬の雨で最上小国川が増水した影響もあり翌週には相当数のそ上が確認され、結果60万粒の卵を採取することができました。採取された卵は受精の後、昨年完成したふ化場に移され、ふ化の時を待ちます。また、小国川漁業協同組合職員は採取した卵をふ化させ、丈夫な稚魚を飼育し放流するため、国立北海道区水産研究所千歳サケます事業所で採卵やふ化技術などの研修を受講しました。この研修は卵のふ化技術、稚魚の飼育・放流など技術教養の向上を通して、サケふ化場やアユ中間育成施設を十分活用していくための人材の育成を目的として実施しているものです。

●舟形町農業振興課：0233-32-2111（代）



H29. 10～11 サケ採捕の様子



H29. 11 サケの採卵の様子（研修）

未来へつなぐ、放流体験！



H29. 6. 22 サクラマス稚魚放流体験学習



H29. 5. 26 稚アユ放流体験学習

「最上小国川清流未来振興計画」に基づく取り組みの中から「サクラマスの放流推進」について紹介します。

小国川漁業協同組合では県の魚である「サクラマス」を知ってもらい、サクラマス資源の増大を図るとともに漁場環境保全の重要性についての学習を通して、故郷の美しい自然に触れる事を目的として流域の子供たちと一緒に放流体験学習を実施しています。

今年度は6月22日（木）に最上川の支流である絹出川において、最上町立向町小学校3年生23名とサクラマス稚魚放流体験学習を行い、5,000尾が放流されました。

また、サクラマスだけではなく稚アユやイワナ、サケの稚魚の放流体験も実施しており今年度は最上・舟形両町で計7回実施しました。21,000尾もの稚アユを児童107名が最上小国川に放流しました。

●小国川漁業協同組合：0233-32-2892



流水型ダムの建設状況

（定礎式～堤体打設本格化）



H29. 10 ダム堤体状況（打設高さ12m）

— 定礎式 —

6月13日に、ダム建設の節目となる定礎式が行われました。知事式辞では、長年にわたる関係者への謝辞とともに、関東・東北豪雨などで浸水被害が発生していることから、事業の必要性が再認識され、できるだけ早く治水効果が発揮できるように、また、流域の関係者と策定した「最上小国川清流未来振興計画」に基づく本地域の活性化に全力で取り組むと話がありました。

高橋重美最上町長のあいさつの後式典が行われ、最上町でのみ産出される「最上石」を使用し、ダムの永久堅固と流域の発展を願って埋納した定礎石にコンクリートが流し込まれると、くす玉を割って祝い、森富広舟形町長の音頭により万歳三唱を行いました。

— ダム堤体コンクリート打設 —

定礎式後に本格化した堤体工事では、流水型ダムの「穴」にあたる常用洪水吐きの鋼製保護部材を設置しながら、大量のコン

クリートを打設しました。打設量は、場所によっては1日あたり500m³以上の打設作業を行い、また気温の高い夏期には、温度上昇によりコンクリートの品質に悪影響を与えない夜間にコンクリート打設を行いました。

本年度は堤体高さ41mのうち、約16.5mまで打設する予定で作業を進めています。

— 来年度の工事予定 —

来年度は管理棟建築工事などダム本体以外の工事にも本格的に着手し、早期完成に向けて工事を行います。これまで同様に河川環境の保全に配慮して工事を進めてまいります。

●最上小国川流水型ダム建設室：0233-29-1407



H29. 5
工事現場写真

H29. 6. 13
定礎式

堤体コンクリート
夜間打設

H29. 9
進捗状況写真

【編集後記】今後も最上小国川清流未来振興計画に掲げた施策の取り組み状況を紹介していきます。また、最上小国川清流未来振興機構のホームページでも、施策の取り組み状況や流域での地域づくり活動・観光情報などを掲載していますので、是非ご覧ください（<http://seiryu-mogamiogunigawa.jp/>）。

【お問い合わせ先】最上小国川清流未来振興機構（山形県最上総合支庁総務企画部総務課連携支援室内）：0233-29-1240